

兵庫県におけるオサムシの分布(3)*

高橋 寿郎

はじめに：第2報を投稿後に大阪市立自然史博物館から同館収蔵資料目録，第11集として近畿オサムシ研究グループによる“近畿地方のオサムシ”（1979）が発表された。この報文の中では兵庫県下での記録も大変多く出ている。従って今回報告した種の産地の追加は一緒にふくませて頂くことにした（括弧の中に1979とある記録）。またダイセンオサムシ *Carabus* (*Ohomopterus*) *daisen* (Nakane) を兵庫県下から記録しておられる。僅かの記録ではあるが筆者の浜坂で採集したのもやはりこの種に該当するのではないかと思う。本種に就いては今一層調査しなくてはならないと考へている（従って本種を兵庫県産オサムシに数えるので今回の報文は番号10から始める）。

松本健嗣氏よりエゾカタビロオサムシが神戸電鉄西鈴蘭台駅付近の照明灯に多く来ていることを御教示頂いた。やはり多くいる場所があるようである。

マヤサンオサムシの原産地摩耶山での採集を戦後やっていないので1979年調査に行つて2♂(1979-V I-15)を採集出来たが谷を1つへだてた再度山には非常に多くいるのに驚いた(19♂, 5♀, 10-V I-1979, 4♂, 3♀, 20-V I-1979)。

神戸市須磨区の妙法寺付近は自然環境が戦前と全く違っている。オサムシ類は冬期オサムシ堀ではほとんど得られなかったが少量のエチレングレコールを入れたホルトラップ法でヤコンオサムシは多くいることがわかった(11♂, 11♀, 25-V I-1979)。

くろながおさむし亜属 *Leptocarabus Géh.n*

10. *Carabus* (*Leptocarabus*) *procerulus*

Chaudoir, 1862.

クロナガオサムシ

産地：川辺郡大野川～一本松，猪名川町杉生新田～天王南の峠〔1979〕。神戸市〔142〕。住吉〔449〕，御影〔316〕，鈴蘭台〔1979〕，山の街〔1979〕，山の街(7♂, 6♀, 23-III-1975, 6♂, 2♀, 30-III-1975, 1♂, 1♀, 24-X I-1975, 3♂, 2♀, 17-I-1976, 5♂, 1♀, 6-III-1976, 3♂, 4♀, 13-X I-1976, 1♀, 13-II-1977, 1♂, 4♀, 27-II-1977, 3♀, 20-III-1977, 1♀, 15-X-1977, 4♂, 2♀, 15-I-1978, 1♂, 2♀, 18-III-1978, 1♂, 2♀, 30-V I-1978), 藍那(4♂, 7♀, 14-X II-1975, 7♂, 4♀, 2-I-1976, 2♂, 2♀

2-V-1976, 7♂, 2♀, 3-X I-1976, 3♂, 1♀, 31-X-1978, 1♂, 10-X I-1978, 6♂, 5♀, 4-I V-1979, 1♂, 10-V-1979, 2♀, 2-X II-1979, 1♂, 17-I-1980), 山田町餓鬼ノ隘〔富永, 1973〕, 加東郡社町清水寺〔富永, 1973〕, 多可郡加美町三谷(1♂, 2♀, 18-I V-1975), 中町茂利, 加美町清水口, 清水～鳥羽〔1979〕, 加西市河内町普光寺〔1979〕, 神崎郡神崎町笠形山, 上大山, 生野峠, 大河内町城山, 長谷〔1979〕, 佐用郡三日月湯浅口～高蔵山～徳平〔1979〕, 宍粟郡山崎町岩田神社～NHK塔, 山崎, 千穂町千草～岩野辺〔1979〕, 多紀郡篠山町東浜谷春日神社, 郡家, 城東町四十九, 多紀町天引峠, 篠山町小金嶽・三嶽間の峠, 火打岩東南方, 西浜谷～東浜谷〔1979〕, 篠山町〔149〕, 春日神社(1♂, 3♀, 17-I V-1956), 西紀町(1♂, 18-I V-1976, 2♂, 1♀, 15-I-1977, 1♀, 19-I-1977, K. Kobayashi leg.), 氷上郡〔514〕, 市島町多利東方, 多利～神池寺, 樽井, 柏原町柏原入船山八幡神社, 青垣町杉谷〔1979〕, 山南町若林(1♂, 2♀, 7-I-1977, 1♂, 23-I-1977, K. Fujiwara leg.), 出石郡出石町魚屋〔360〕, 水石, 鯨山峠, 豊岡市高屋金山稻荷神社〔1979〕, 城崎郡香住町三川山, 日高町国分寺〔1979〕, 朝来郡朝来町青倉山, 生野町, 山東町小谷, 朝来町〔1979〕, 養父郡八鹿町上小田, 世賀居, 大屋町須賀ノ山古生沼付近〔1979〕, 氷の山〔142〕, 美方郡温泉町蒲生峠越坂上の神社, 美方町鍛冶屋, 温泉町湯村面沼神社〔1979〕。

以上のごとく本種は県下では広く分布している種である。神戸市内産のものは細形の個体である。

11. *Carabus* (*Leptocarabus*) *kumagaii Kimura et Komiya, 1974.*

オオクロナガオサムシ

産地：川辺郡猪名川町猪名川〔449〕, 上肝川, 上阿古谷三草山〔1979〕, 川西市西畦野〔1979〕, 能勢高山〔1♂, 1♀, 29-X I-1964, K. K. Matsumoto leg.〕, 大和, 笹部〔仲田, 1978〕(仲田氏による川西市内での記録クロナガオサムシは全部本種のことであると御連絡頂いたので此処ではこの種として取扱っている)。宝塚市最明寺滝, 切畑口, 大原野中部, 玉瀬亀岩林道〔1979〕, 切畑(2♂, 3♀, 28-V I-1977, K. Okutani leg.), 神戸市〔164〕, 鶴越〔141〕, 養父郡氷の山〔141, 142〕。

命名者の一人木村欣二氏の解説によると〔141〕, 兵

*兵庫県甲虫相資料, 65.

庫島鴨越にクロナガオサムシとの分布の重複が見られるということである。詳しい記録が示されていないのでよくわからないが筆者の住んでいる神戸市神戸電鉄鴨越駅付近を意味するのではないかと思はれる。筆者自身この鴨越付近並びに鳥原貯水池付近での長い間の調査、採集結果では残念ながらこの両者を得ていない。クロナガオサムシの方は山の街、藍那には多いからこのあたりにいても不思議ではないが今の所確認出来ていない。その他氷の山にも離れて記録がある。

筆者が今迄調べてきたことよりすれば本種は武庫川から東の地域にいるようで西の方中央部とか北部にかけてクロナガオサムシがおり県の西南地域に次記ニセオニクロナガオサムシが分布しているのではないかと考えられる。

12. Caracus (Leptocarabus) kyushuensis nakatomii Ishikawa, 1966 ニセオニクロナガオサムシ

産地：赤穂郡上郡町山野里平野～大酒〔1979〕、上郡町高嶺神社（1♀、20-XⅡ-1975）、佐用郡大撫山〔457〕（1♂、1♀、15-Ⅲ-1975、6♂、13♀、6-XⅡ-1975、8♂、11♀、13-Ⅲ-1976、5♂、2♀、25-IⅤ-1976、1♂、2♀、20-XⅠ-1976、1♀、11-Ⅲ-1977、1♂、1♀、2-V-1978）。

石川良輔氏は中国地方に産するクロナガオサムシの♂交尾器の形状がキュウシュウクロナガオサムシの亜種と考へられキュウシュウクロナガオサムシを *procerulus* とは別種として種に昇格された（1966）、そして同時にこの中国地方産クロナガオサムシを夫々 *C. kyushuensis cerberus*, *nakatomii* の二亜種に別けられた。*cerberus* は大形で広島島、山両県の山陽側にすみ、*nakatomii* は外見前者とよく似るが分布はより広く島根、鳥取両県、広島県安芸郡の一部に産すると云われている。

筆者の採集した標本の♂尾器の形状は *nakatomii* であると考へる（近畿オサムシ研究会の報文では *cerberus* と取扱っているが、後藤光男氏も佐用郡産はこの亜種であるとされておられるし、山地 治、脇本 浩氏、“岡山県のオサムシ採集記録。すずむし、NO. 116: 39-42, 1972”によると岡山県各地産はこの亜種扱をされている）。

現在兵庫県下赤穂郡上郡、佐用郡大撫山にのみ産することが知られている。分布の東限であると考へられる。

くびながおさむし属 *Damaster* Kollar

まいまいかぶり亜属 *Damaster* Kollar

13. Damaster (s.str) blaptoides Kollar, 1836.

マイマイカブリ

産地：津名郡常隆寺山〔桂, 1971, 90〕、五色町鮎原吉田〔川瀬, 1979〕、淡路町釜口～月山観音、北淡町興隆寺上～伊勢ヶ森〔1979〕、洲本市先山、柏原山～竹原

ダム、中川原町市原横尾トンネルの南〔1979〕、先山〔桂, 1971, 堀田, 1976, 川瀬, 1979〕、安平町〔堀田, 1978〕、下加茂、納、内田〔1979〕、三原郡論鶴羽山〔桂, 1971〕、南淡町稲田、福良〔川瀬, 1978〕、川辺郡猪名川町柏原、大野山～一本松、大原山～柏原、川西市笹部大昌寺〔1979〕、笹部、花折橋付近、西畦野〔仲田, 1978〕、宝塚市立合新田～増川、鳥脇、夫婦岩～中山寺〔1979〕、西宮市北部山地有馬地区、六甲山地東南部〔92〕、山口町畑山陵線、丸山山頂～六伝、船坂川～三ヶ森、上ヶ原甲山浄水場、仁川清溪橋、芦屋市トビワリ～東お多福山〔1979〕、Hiogo〔10, 12, 183〕、神戸市御影〔316〕、保久良山（2♂、1♀、30-XⅡ-1975）、鳥原（1♀、1-VⅢ-1971、1♂8-VⅢ-1971、1♂、1♀、1-V-1973、1♂、8-VⅡ-1973、1♂、18-VⅡ-1974、1♀、31-VⅡ-1977、5♂、3♀、13-VⅢ-1977、1♂、21-V-1978、1♂、1-VⅢ-1978、1♂、16-V-1979）、山の街（1♂、23-Ⅲ-1975、3♂、3♀、30-Ⅲ-1975、2♂、24-XⅠ-1975、1♀、17-Ⅰ-1976、1♂、1♀、6-Ⅲ-1976、1♂、3♀、13-XⅠ-1976、1♂、2♀、13-Ⅱ-1977、2♂、2♀、20-Ⅲ-1977）、藍那（1♂、14-XⅡ-1975、1♀、2-Ⅰ-1976、1♂、3-VⅡ-1979）、谷上（1♀、1-Ⅱ-1976）、下谷上（1♂、30-X-1979、1♂、21-XⅠ-1979）、道場（1♀、13-ⅠⅤ-1974）、多井畑〔449〕（lex., 18-V-1939）、山田町餓鬼ノ窟〔富永ほか, 1973〕、摩耶ケーブル駅付近、北区道場町静ヶ池～水久野、飛瀬北方、秀ヶ辻方面、淡河町論破山、南中池、妙賀山北斜面、鳥原貯水池～鴨越、ヨモシロ谷～猪鼻橋、東山橋～上唐櫃、稚子ヶ墓山、下唐櫃おしやもじ観音、西脇山、丹生山～坂本、鈴蘭台、三木市、永沢寺奥ノ院、番下羽東山、大磯、吉川町蓮花寺〔1979〕、加東郡社町清水寺〔富永ほか, 1973〕、多可郡白山〔250〕、神崎郡笠形山（2♀、6-XⅠ-1976）、大河内町砥ノ峯、栃原谷、長谷〔1979〕、姫路市千本〔中巨, 1970〕、相生市三濃山（1♂、6-V-1973、1♂、7-V-1972、1♂、16-VⅠ-1974）、赤穂郡上郡町大富字富満（lex., 2-V-1978）、上郡町上郡、尾長谷～惣尻、佐用郡佐用町西徳久、大撫山〔1979, 457〕（1♂、4♀、6-XⅡ-1975、4♂、4♀、13-Ⅲ-1976、1♂、1♀、20-XⅠ-1976）、揖保郡〔260〕、粟栗郡山崎町岩田神社、千種町千草〔1979〕、音水（1♂、13-V-1973）、多紀郡篠山〔149, 岸田, 1975〕、三嶽〔中巨, 1970〕、多紀郡城東町、西紀町〔1979〕氷上郡〔514〕、出石郡出石町松ヶ枝〔360〕、城崎郡日高町日置、竹野切浜、豊岡市神武山〔529〕、香住町大乘寺（lex., 17-V-1970）、朝来郡山東町、朝来町、養父郡八鹿町〔1979〕、氷の山〔353〕、

美方郡村岡町春來峠南下丸味，美方町熱田〔1979〕。

本種はご覧のごとく兵庫県下に最も広く分布している種である。個体数も割合いるようで夏季トラップによる採集をやると相当数集ってくる。

以上兵庫県に分布する13種のオサムシ類に就いての産地を記録した。まだまだ調査しなくてはならない地域を残しているのでこの時点での県下のオサムシ相云々は時期尚早かも知れないが一応要約しておきたい。

○広く分布している種はオオオサムシ，ヤコンオサムシ，マヤサンオサムシ，クロナガオサムシ，マイマイカブリの5種である。その中でマヤサンオサムシ，クロナガオサムシがやや個体数が少ないのではないかと考へられる。

○マヤサンオサムシは県下に広く分布しているが淡路島からの記録が無い。岡山，鳥取両県との境近くでも得られているがこの種は中国地方ではほとんど採集されていない。

○クロカタビロオサムシ，エゾカタビロオサムシ，セアカオサムシ等は記録から見れば広く分布しているようであるが個体数はどれも少いグループのようである。

○アキオサムシが県下の淡路島洲本市先山と県の東西両側にのみ記録があり中央部にはほとんど記録されていないことも調査不十分の結果からかも知れないが変っている。全般に個体数がそれ程多くない種である。

○ホソアオクロナガオサの分布もやや上記の種に似た分布をしている。即ち県の東西両側に分布し，大撫山にはあれ程いるのに他の地での分布が大変少い，どういうわ

けであろうか。淡路島に全くいない。

また中国山脈に分布しているダイセンオサムシを産することも注目されてよい。

○オオクロナガオサムシの分布も目下余りはっきりしない。クロナガオサムシは県下に広く分布しているがオオクロナガオサムシの方はそれ程多くないようだし東の方武庫川を境にした地点にはいるようであるが中央部とか記録にあるように北西部に迄分布しているのかどうか今後の調査に依らねばならない。クロナガオサムシと共に淡路島から全く記録されていない。

○ニセクロナガオサムシが大撫山と上郡付近にのみしか知られていないのも特記すべきである。分布の東限にあたるようである。

以上県下のオサムシの問題点を大雑把に述べたがまだまだ全体のことを論ずることが出来る段階ではないと考へている。1980年代も未調査地を中心にトラップによる採集調査を続けているので，この結果により更に色々の問題点も出てくるであろうと考へている。

参考文献は大変多くあるが省略させて頂いた。

〔付記〕 1980年5月12日神戸市内の烏原貯水池沿の道路上で歩行中のクロカタビロオサムシの一雄が採集出来た。この地域では40数年間の調査で1度も出会ったことのないものである。大変珍しいがこの六甲山系にいたことが確められて喜んでいる。

(1980, June.)。